令和６年度 施政方針

（はじめに）

はじめに、本年早々に石川県能登地方で発生しました、能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地の方々は不安な日々をお過ごしのことと存じます。被災された地域の皆様の安全と、一日も早い復旧を祈念し、私どもも微力ながらお役に立てるよう努めてまいります。

さて、昨年も高浜市出身の若い世代の活躍に勇気づけられた年でありました。市内の少年野球チーム出身の岩井俊介さんがプロ野球「福岡ソフトバンクホークス」へ入団され、また、杉浦悠太さんは、ゴルフ国内男子ツアー「ダンロップフェニックストーナメント」で大会史上初のアマチュアでの優勝、鈴木俊介さんが特別全国障害者スポーツ大会で２つの銀メダルを獲得するなど、若い世代が輝きを放ち、岩井さんはプロ野球選手へ、杉浦選手はプロゴルファーへと新たな自分のステージにその歩みを進めました。

本市においても第７次総合計画がスタートして１年が経過しようとしています。高浜市の新たなステージを歩み始めた１年目も、引き続く国際情勢の影響による原油価格や物価の高騰、さらには昨年１２月２２日に国立社会保障・人口問題研究所が発表した地域別将来推計人口を受け、消滅の恐れのある自治体が１０年前の試算より増加しているなど、社会を取り巻く状況は依然として厳しい状況であります。

しかしながら、そんな時代だからこそ、若い世代が歩んでいく将来のために、さまざまな取組みを加速させていかなければなりません。

そのためには、まちの課題を自分事として考え、一人称で語るまちを目指す、つまり高浜市で暮らしていくにあたり、自分には何ができるかということを考え、ただ望むだけではなく、みんなで考え、みんなで協力して取り組んでいくことが必要であります。それぞれの地域にお住まいの皆様が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる社会の実現に向けた体制を整備するため、令和６年４月から新たに「福祉部共生推進グループ」を新設し、地域や関係者との連携を深め、誰一人取り残さない地域共生社会実現に向けた重層的支援体制を新たなステージへと進めてまいります。

加えて、これまで積み重ねた『大家族』のような「あたたかなつながり」「想い」が、日々刻々と変化する厳しい社会情勢の中においても、高浜市が成長し続ける「チカラ」になると信じております。

目指すべき未来を見据え編成する令和６年度の当初予算については、バックキャスティングの考え方に基づき、各事業における将来のあるべき姿から、現在の解決すべき課題を見出すとともに、新たな行政需要に対応するため、既存事業の縮小・廃止も含めた検討を行い、限られた財源の中で事業の選択と集中を図る「未来に繋ぐ変革予

算」と位置づけ、編成をいたしました。

この予算編成における３つの基本的な考え方は、「抜本的な事業の見直し」と「ビルド・アンド・スクラップの徹底」、「重点取組事業への財源配分」とし、重点取組事業では６つの事業を掲げております。

重点取組事業は、「安心・安全な子育て環境に関する事業」、
「教育環境の向上に関する事業」、
「ＤＸ推進に関する事業」、
「地球環境の保全に関する事業」、
「地域経済の活性化に関する事業」
「地域共生社会の実現に向けた事業」でございます。

（令和６年度の主要施策）

それでは、これより令和６年度の主要施策について、第７次高浜市総合計画の基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「手を取り合ってみんなでまちをつくろう」でございます。

コロナ禍を乗り越え、地域社会は、ここ数年実施することができなかった行事・イベントなどが復活し、皆様の笑顔に市内各所で出会う機会が増えました。しかしながら昨今の時代背景、そしてコロナ禍の影響により、地域団体の硬直化、まちづくり人材の不足などの課題が現れてきました。

そうした中においても、総合計画のキャッチフレーズにもあります「大家族」のような、支え合い、助け合っていけるまちの姿を未来へとつないでいくためには、今一度、まちづくりの原点に立ち返るとともに、これからの時代の流れも取り入れながら、柔軟に挑戦していくことが求められています。

本市の未来を担うこども・若者の声を聴き、市政に活かしていくため、小学校高学年から大学生を対象に市の取組みについて学ぶ機会として、こども若者会議を設けていきます。また、若者の挑戦を応援していくため、市民予算枠事業交付金（協働推進型）に若者応援版を新設してまいります。

「大家族」のような、支え合い、助け合っていけるまちの基盤となる町内会の負担軽減を図り、町内会員間での情報共有を活性化し、町内会の存在意義を高める取組みのひとつとして、町内会運営支援システムのモデル導入を進めてまいります。

ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進では、引き続き、自治体情報システムの標準化を進めるとともに、各種証明書等の発行手数料に関するキャッシュレス決済の導入、おくやみ窓口の設置など、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現を目指し取り組んでまいります。あわせて、情報管理を徹底するため、情報

セキュリティポリシーの運用のための職員研修を実施してまいります。

次に、基本目標Ⅱ「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう」でございます。

これまでの高浜市を築いてきた我々大人が、これからの高浜市を築いていく方々に残していけるもの、残していきたいものは何でしょう。私は、これまでの高浜市を築き、紡いできた人の想いや心であると思っています。時代が移り変わろうとも、次代を担う子どもたちを安心して育てることができ、我がまちに愛着と誇りを持つ心豊かな人を育み、人と文化を未来につないでいくことが大切であると考えています。

子育ち・子育て支援では、令和５年１０月２５日に私自身、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター」に就任をいたしました。令和６年４月から、こどもを育てる保護者だけでなく、こども自身が相談できる窓口としてこども家庭センターを開設し、「こどもまんなか」の取組みを進めてまいります。また、保育環境等の整備として、吉浜幼稚園の長寿命化改修工事や吉浜北部保育園の空調設備更新工事を行うなど、子育て環境の充実を図るとともに、待機児童のない安全・安心な保育を目指してまいります。

学校教育では、「第２次高浜市教育基本構想」に掲げる目指すこどもの姿「自分の学びをデザインし、なりたい自分に迫る子」の実現のため、基礎学力の育成や「人・もの・こと」との関わり合いを重視した教育活動の実施などを実践し、自分・仲間・社会の幸せのために学び続ける子どもを育んでまいります。また、質の高い教育環境の整備については、昨年度に引き続き、高取小学校及び吉浜小学校の長寿命化改良工事、高取小学校給食施設改築工事を着実に実施するとともに、南中学校外壁等改修工事に係る設計業務など、学校施設の改善を進めてまいります。

学ぶきっかけをつくり、学びを通じ人とつながり、人を育む、学びの成果をまちづくりへとつなげていく生涯学習では、これまでの歴史や文化を学び・伝えていく「たかはま歴史・文化保存事業」や昨年７月に本格オープンしました「かわら美術館・図書館」など、「知りたい」「やってみたい」といった感覚を刺激し、学び、発見する楽しみを生み出す取組みを引き続き進めてまいります。

次に、基本目標Ⅲ「行きたい 住みたい 住み続けたい 魅力がつながるまちをつくろう」でございます。

高浜市に行ってみたい、そして住んでみたい、最終的にはこの地に住み続けたいと思ってもらえる。そんな魅力あるまちの実現を目指していくためには、地域経済が活性化し、まちに活気が溢れ、快適で暮らしやすい社会生活環境の維持・向上が必要不可欠であります。

快適な暮らしを支える都市基盤の整備として、道路、橋りょう、公園、水道施設な

どの計画的な維持・修繕を行ってまいります。また、局地的集中豪雨などへの雨水対策として、八幡町、新田町の排水施設の工事に着手してまいります。

自分らしく、安心して生活できる住みやすいまちづくりの基盤として、これまでも地域の公共交通として重要な役割を果たしてきた「いきいき号」を、ＡＩ（人工知能）を活用したデマンド型交通へと進化させていくための実証運行を１０月頃から開始し、「誰一人取り残さない」利便性の高い移動手段を確保し、市民に喜ばれる公共交通網の形成を図ってまいります。

また、物価高騰の影響が続く中、市内の消費喚起を図り、事業者を支援するため、市内の事業所で利用できる電子クーポンを高浜市公式ＬＩＮＥを活用し、実施してまいります。

環境分野では、人と地球にやさしいきれいなまちを目指していくためには、地域・個人・事業者、それぞれが小さなことをつみ重ねることが重要であります。

令和５年度に策定する環境基本計画、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及びごみ処理基本計画に基づき、脱炭素社会、循環型社会に向けた環境施策を推進してまいります。

令和５年度に作成する公共施設太陽光発電設備導入計画を基に、２０３０年までに、設置可能な公共施設の建築物等の５０％に太陽光発電設備の導入を進めてまいります。また、個人向けの「スマートハウス設備設置費補助金」に加えて、事業者向けに省エネ診断促進補助及びその診断結果に基づく省エネ設備等の導入を支援する、「カーボンニュートラル推進支援補助金」を創設し、ゼロカーボンの実現に向けた取組みを推進してまいります。

次に、基本目標Ⅳ「心もからだも元気 毎日を笑顔で暮らそう」でございます。

福祉・健康では、引き続き、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」に掲げた物価高騰に対する各種給付金の迅速な実施に取り組むとともに、社会構造の変化により、様々な課題が絡み合う「複雑化」、複数の分野にまたがる「複合化」した課題に対応していくための包括的な支援体制の強化が求められています。

支え・支えられる関係の循環を生み出し、心身ともに自分らしく暮らし続けられる地域共生社会を実現していくため、重層的支援体制の構築・強化を進めてまいります。

また、高浜市に暮らす誰もが、生きがいや役割・希望を持ちながら、「こころ」も「身体」も健やかで自分らしく暮らしていけるよう、第３次「健康たかはま２１計画」及び第２次「自殺対策計画」の策定を進めてまいります。

災害や犯罪はいつ発生するか分かりません。毎日を笑顔で暮らすためには、普段から安全・安心に暮らせる環境づくり、とりわけ「防災・防犯」は、市民のもっとも身近な、自分ごととして、関心が高いものであります。防災では、自らが暮らす地域の状況を知るために大切な防災マップについて、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域が

追加指定されたことを踏まえて修正をしてまいります。
　また、防犯については、これまで地域の安全・安心を防犯パトロール活動など、地域自らの目で守り合ってきました。その地域の目を補完するため、新たに「防犯カメラ設置費補助金」を創設し、犯罪抑止のための防犯カメラの設置を支援してまいります。

最後に、各目標の実現を支える行財政運営でございます。

　厳しい財政状況下においても、市民サービスを低下させることなく維持、向上させていくためには、経常的な経費の削減と財政支出の平準化に努め、新規・拡充事業の実施に必要な財源を確保していく必要があります。そのための取組みとして、令和６年度は、公用車の管理方法の見直しによる公用車台数の減少、委託事業の見直しによる委託費の削減などに取り組んでまいります。
　また、市民の皆様に「デジタル行政サービス」の利便性を実感していただくためにも、今までの「対面窓口」から「デジタルでの手続き」への推進を図っていくため、これまで実施しておりました市役所およびいきいき広場福祉総合窓口の土曜日開庁を令和６年４月１日から見直してまいります。

以上、令和６年度の市政運営に当たり、重点施策について、申し述べさせていただきました。

（結びに）

　昨年の施政方針の中で、高浜市が歩む第７次総合計画という新たなスタート、その目指すべきまちの姿の実現に向けて、時代の変化に合わせて、都度修正してアップデートしていく意味で「アジャイル（agile)」という言葉を使いました。
　我々を取り巻く社会環境は刻々と変化をしています。目指すべきゴールは変わらなくとも、そこに辿り着くための手段は変化・アップデートされていきます。時には前例がないようなチャレンジをしないといけない状況もあるかもしれません。
　「ＹＭＷ」。やって、みなくちゃ、わからない。という言葉をローマ字変換した際の頭文字ですが、この言葉は、新型コロナウイルスのｍＲＮＡワクチンの開発に貢献し、２０２３年のノーベル生理学・医学賞に選ばれたカタリン・カリコ氏らの研究において、日本人研究者として重要な貢献をした古市泰宏（ふるいち　やすひろ）氏が言われた言葉であります。意味するところは、「何事にも好奇心をもって挑戦すれば、何か得られることがある」というものです。
　思いますに、歴史は挑戦の繰り返しで、「今」を形成しています。当時は考えもしなかったようなことが今では当たり前になっています。今、考えもしなかったようなことが、未来では当たり前になっていきます。まさに、「やってみなくちゃわからない」

を繰り返し、未来の今があると思います。

多くの人や想いが出会い、つながり合うことで、大家族のような、助け合い、支え合う姿勢、そして失敗を恐れずに挑戦していく姿勢を大切にし、“おたがいさま”がつながる、しあわせなまち「大家族たかはま」の実現に向け、全力で邁進してまいります。以上、令和６年度の施政方針を述べさせていただきました。

今後とも市民の皆さま並びに議員各位のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。